

蒜山分場便り

6月一杯は雨一つ降らぬ晴天続きに恵まれて県北の蒜山原野も爽夏の気分を満喫出来たが7月に這入ってから俄然豪雨に見舞われ以来20日余り蒜山の3連山は雨雲に覆われて雨天が続いて居る。今朝久振りに雷鳴がする。もう梅雨も明ける頃だろう。場内の飼料畠には玉蜀黍がすくすくと育ち、トラクターで反転した牧草畠には漏れた黒土が眼に生々しい。耕馬は早朝から草地に放飼いにされて居る。彼女は玉蜀黍を好まないのか、玉蜀黍畠の方は見向きもしないでクローバーや雑草を喰み乍ら場内を自由に移動して居る。種牡牛は4頭皆温順で1頭を舎外に出すと残りの牛が一樣に催促する。殊にジャージーは今迄人に叱られた事がないらしく頸を撫でれば何時迄も頭を下げてじっとして居る。午前6時朝の共同作業が始まる。各自手に手にシャベル、鋤簾等を携えて溝掘りや地均し等を行う。作業終了後小川で器具を洗い朝食となる。1時間余の労働で食欲は増進し肌を撫でる微風も快い。

人里離れた場内にも7時過になればジャージーや和牛の牝牛が曳かれて授精にやってくる。又場内を通過する小学児童の行列が遙か西方の山際に現われて次第に大きくなり又視界から消去る迄十分近く続く。

場内の宿泊の職員は一部屋に集り、トラクターの職員は2階の大広間に起居して居る。急な直立の梯子を攀登れば部屋の遙か一隅に寝具が積重って見える。

東端の櫟林は亭々と聳え日中ひぐらしの声が喧しい。西南は標高550mの高地となり頂上に登れば、雄大な蒜山原野が一目に展望出来る。8時過から夫々の業務が始る。患畜の診療に夜を徹し充血した眼で出て行く者、ハルゼレ糖液を後に積んでオートバイで走る者、ポールを立て、農場を測量する者もある。1日の作業が終れば急造の風呂場に疲れを癒し、夜は湊流に

釣糸を垂れる者、又川に這入って魚をすくう者もある。寝室には毎夜の様子に蛍が2、3匹飛込んで来る。毎朝玄関にはジャージー牛乳の瓶が並び、昼頃に飲めば黄色の厚い脂肪層がざらざらと光る。草原には時節外れのわらびが相不変芽をのぞかせ、郭公や鶯、山鳩等が啼いて居る。夜は蚊帳も要らず冬蒲団にくるまって寝る。今年は場内4町歩の耕作と2町歩の開墾に全力が向けられ、他方防雪林の植林や種牡牛舎、精液採取場、独身寮公舎等の建築も秋には完成の予定で着々と整備されて居る。

初雪迄後4ヶ月、来るべき冬に備えて飼料畠の耕作に忙しく、又ジャージー農家の指導に、調査事項の蒐集にとジャージー園の確立を目指して忙しく働いて居る。